別記様式第４号（その１）

（用紙　日本工業規格Ａ４縦型）

教員個人調書（Personal History of teaching staff）

履　歴　書　（Curriculum　Vitae）

フリガナ	タナカタカエ				
氏名（name）	田中孝枝				

学　歴　（academic　background）

年(y)月(m)	事　項　（school,　college,　university）
2002年　3月	浦和明の星女子高等学校　卒業
2002年　4月	お茶の水女子大学　生活科学部　人間生活学科　生活社会科学講座　入学
2006年　3月	お茶の水女子大学　生活科学部　人間生活学科　生活社会科学講座　卒業、学士（生活科学）を取得
2006年　4月	東京大学大学院　総合文化研究科　超域文化科学専攻　修士課程　入学
2008年　3月	東京大学大学院　総合文化研究科　超域文化科学専攻　修士課程　修了、修士号（学術）を取得
2008年　4月	東京大学大学院　総合文化研究科　超域文化科学専攻　博士課程　進学
2009年　2月	留学：中山大学（中国広東省）　社会学と人類学学部　研究生（2010年7月まで）
2014年　3月	東京大学大学院　総合文化研究科　超域文化科学専攻　博士課程　単位取得退学

職　歴　（career　history）

年(y)月(m)	事 項 （school,　college,　university,　organization）
2009年　3月	中国広東外語外貿大学（成人高等教育）非常勤講師（「日本語読解」「日本語会話」担当）（2011年2月
2012年　7月	公益財団法人日本人事試験研究センター　非常勤職員（2014年3月まで）
2014年　5月	昭和薬科大学　非常勤講師（「アカデミック・スキルズ：国語演習」演習Ⅱ担当）（2014年6月まで）
2014年　10月	多摩大学グローバルスタディーズ学部　非常勤講師（「地球社会と東アジア」担当）（2014年2月まで
2015年　4月	多摩大学グローバルスタディーズ学部　専任講師　（現在に至る）
2017年　4月	慶応義塾大学 文学部　非常勤講師（「文化人類学特殊Ⅷ」担当）（現在に至る）

学会及び社会における活動等（activities in academic community and the society）

現在所属している学会 academic communities you belong to	日本文化人類学会、総合観光学会、日本華僑華人学会、日本華南学会、日本国際文化学会、大いなる多摩学会、International Union of Anthropological and Ethnological Sciences

年(y)月(m)	事　項　（activities　in　detail）
2012年　4月	日本文化人類学会課題研究懇談会「東アジアの公共人類学懇談会」会計（2015年3月まで）
2016年　11月	日本華僑華人学会2016年度研究大会　大会実行委員
年　月	

賞　罰　（reward　and　punishment）

年(y)月(m)	事　項　（details,　if　any）
年　月	なし
年　月	
年　月	

現　在　の　職　務　の　状　況（current work place）

勤務先 (name)	職名 (position)	学部等又は所属部局の名称 (faculty or department)	勤務状況（working schedule）
多摩大学	専任講師	グローバルスタディーズ学部	常勤

上記のとおり相違ありません。（I certify the contents in the document is true to the best of my knowledge.）

2017年(y)　6月(m)　29日(d)

氏名（name）　田中孝枝　印（seal）

別記様式第４号（その２）
（用紙　日本工業規格Ａ４縦型）

教育研究業績書（List of research and teaching achievements）

2017年(y)　6月(m)　29日(d)

氏名（name）　田中孝枝　印（seal）

研究分野（research area）	研究内容のキーワード（key word for your research）
文化人類学、観光学	観光、産業、仕事、社会関係、中国、華僑華人

教育上の能力に関する事項（educational abilities）

事項（question）	年(y)月(m)日(d)	概要（summary）
1　教育方法の実践例（method of education）		
1）中国人学生への日本語教授	2009年3月～2011年2月	中国広東省の広東外語外貿大学（成人高等教育：大学卒業の資格を取得できる夜間大学）の「日本語本科コース（学士授与）」と「日本語専科コース（大学専科卒業資格授与）」で日本語の読解、会話の授業を担当した。日本語初級レベルから上級レベルの学生が混在する20名程度のクラスであったため、学生の日本語レベルに合わせた課題を与えることで、講義だけでは対応しきれない学生の要求に応えるよう努めた。
2）調査実習授業における、調査計画から成果物発行までの授業補佐	2013年4月～2014年3月	東京大学教養学部文化人類学専攻の学部3年生必修授業「野外調査実習」において、ティーチング・アシスタントをした。授業に参加し、調査テーマの設定、実際のフィールドワーク、データの整理、論文執筆までの全過程において受講生へのアドバイス・サポートを行い、成果物発行のために校正・編集作業を行った。
3）大学初年次生向けのアカデミック・ライティングの指導	2014年5～6月、2015年4月～7月	主に大学１年生向けの基本的な文章の書き方、メールの書き方、論述文の書き方などを指導した。昭和薬科大学では非常勤講師として「アカデミック・スキルズ：国語演習」、多摩大学では「日本語文章表現法」を担当した。毎回課題に基づいて文章を執筆させ、形式・内容双方の面から添削を行った。学生が進歩を感じることができるよう、コメントなどを工夫した。
4）観光学の基礎的内容の教授	2015年4月～現在	観光学の入門的なテキストを使用して、基本的な知識を教授するとともに、教科書の内容を自分たちの身の回りの出来事と結びつけて理解することに重点を置いている。そのため、グループワークやグループディスカッション、調査学習やフィールドワークなどアクティブラーニングの手法を積極的に取り入れて実施している（多摩大学「Tourism I」）。
5）観光人類学・社会学の入門的内容の教授	2015年4月～現在	観光人類学・社会学の入門的テキストを使用して授業を行っている。抽象的な理論を理解できるよう、身近で具体的な事例をもとにしたグループディスカッションをほぼ毎回実施している。概念を覚えるというよりも、学生が物事の新しい捉え方を体得し、世界を多様な角度から見る力がつくような授業を心がけている(多摩大学「Tourism III」)。
6）東アジアの社会文化を中心とした地域研究の教授	2014年9月～2015年2月、2015年9月～現在	多摩大学では非常勤講師として勤務した2014年9月から「地球社会と東アジア」の授業を担当している。人の移動と交流によって生じる文化変容をテーマとして、日本を含む東アジア地域の過去から現在までの結びつきの深さに学生の目を開くような題材を扱うよう努めている。まずは、東アジアという地域や社会的出来事に関心を持たせるため、積極的に映像資料や新聞記事などを利用している。また、基本的な地理的知識が身につくよう、必ず地図を見せるなどの工夫をしている。
7）ゼミナール形式での輪読、ゼミ論文執筆、フィールドワークの指導	2016年4月～現在	多摩大学のゼミナールでは、「日本の多文化共生」をテーマに授業を進めている。2016年度前半は、日本の移民政策に関する書籍や論文を輪読することで、短い文章の要点をまとめ、内容を批判的に捉え、議論する練習をした。後半は、各自の問題関心に従って課題を設定し探求していくことが重要であると考え、自分なりに問いを絞り、ゼミ論文を執筆できるよう指導した。成果物としてゼミ論文集を作成した。2017年度は、キャンパスからも近い多国籍団地の調査を実施している（詳しくは教育方法の実践例８）。

８）高大接続アクティブラーニングの取り組み	2017年4月～現在	多摩大学経営情報学部が中心となって運営する「高大接続アクティブラーニング研究会」のメンバーとなり、ゼミナールでの多国籍団地調査を多摩大学目黒中学・高等学校の生徒20名程度と共に進めている。４月から毎月１度合同調査を実施しており、今後は合同での研究計画発表会、成果発表会、成果物の作成を予定している。中高生と大学生双方の学習効果が高まるよう、様々な可能性を模索しながら進めている。
９）インターゼミでの課題解決型グループワークの指導	2015年4月～2017年3月	多摩大学両学部、大学院合同で実施される学長主催のインターゼミに二年間参加し、学生指導をした。社会経験や専門のかなり異なるメンバーの集まるグループで、一年のうちに課題解決・提案型の論文を共同執筆する。多様なメンバーの問題関心を尊重しつつ、一年の研究として実施可能な方向に議論を進めていくこと、課題解決のための文献研究やフィールドワークの進め方などを学んだ。2015年8月には沖縄へのフィールドワークに引率教員の一人として参加したほか、2016年度も藤沢市を中心に数回のフィールドワークを引率した。
10）海外研修の引率	2016年3月（シンガポール）、2016年5月（韓国済州島）	多摩大学海外研修プログラムとして実施されたシンガポール研修、韓国済州島研究の引率をした。引率教員の一人として、学生の安全・健康に配慮しながら、研修プログラムでの学習がより効果的になるようサポートした。
11）国内研修の企画・運営・引率	2016年８月（沖縄）	「現代観光研究Ⅰ」担当教員の一人として、事前事後授業、沖縄での研修プログラムの企画・運営・引率を行った。初めて実施した研修であったが19名の学生が参加し、事前事後指導や名桜大学での講義、沖縄での平和学習・観光関連施設訪問、文化祭での成果発表など学習効果の高いプログラムを実施することができた。
12）藤沢市・藤沢市観光協会・多摩大学の観光連携等協力協定に関わる各種取り組みをはじめとする地域活性化活動への参加、学生指導	2015年4月～現在	藤沢市飲食店の多言語メニュー作成支援、市民講座、こみゅっと藤沢など、藤沢市における観光をはじめとする地域活性化活動に、ホスピタリティ・マネジメントコース担当教員の一人として積極的に参加するとともに、活動に参加する学生の指導・サポートを行っている。
13）多摩大学藤沢インバウンドプロジェクトへの参加、学生指導	2016年2～3月	ホスピタリティ・マネジメントコース担当教員の一人として「多摩大学藤沢インバウンドプロジェクト」の企画・運営に参加した。学生を有志で募集し、江の島飲食店へのインバウンド観光客対応の現状に関する聞き取り調査を実施した。その結果をもとに、英語と中国語、スペイン語の多言語フレーズ集の内容を充実化・修正した。また、藤沢市観光協会への提案や報告のとりまとめをサポートした。
14）藤沢市と中国雲南省昆明市の姉妹都市提携35周年事業への参加	2016年11月	藤沢市と中国雲南省昆明市の姉妹都市提携35周年事業に参加し、藤沢市商工会議所メンバーと共に、昆明およびベトナム・ハノイを訪問した。
２　作成した教科書，教材（textbooks or materials you published or made）		該当なし
３　教育上の能力に関する大学等の評価（evaluation on abilities by university and/or other working places）		多摩大学グローバルスタディーズ学部授業評価アンケート「Voice」による学生満足度は、概ね専任教員の平均点以上となっている。2016年度春学期、2017年度春学期には「40人以上クラス」のカテゴリーで顕彰を受けた。
４　実務の経験を有する者についての特記事項（special remarks for those with teaching experience） 1)地域住民や高校生･大学生へ海外で働く人々の紹介 講演タイトル:「日本と中国をつなぐ:中国広州市の日系旅行会社で働く」	2014年9月	宮城学院女子大学キリスト教文化研究所主催公開シンポジウム「海外観光地を支える日本人―アジア諸国の観光業界で働く日本人の仕事と人生」において、参加した一般地域住民や高校生・大学生に対して海外で働くことについて講演した（於・宮城学院女子大学）。

2)小松市市役所において観光業従事者への専門的知識の提供 講演タイトル:「増大する訪日中国人観光客の動向と中国人へのおもてなし」	2015年3月	2014年度金沢大学地（知）の拠点事業地域志向研究費「外国人疎住地域における多文化共生施策の展開手法」の一貫として、金沢の観光業従事者向けに中国人観光客の特徴について講演した（於・小松市市役所）。
3)異文化経営に関わる社会人への専門的知識の提供 発表タイトル：「日本と中国をつなぐ職場における『文化』：中国の日系旅行会社を事例として」	2016年1月	筑波大学2016年度公開講座「国際経営論」において、一般社会人向けに、日中間の異文化経営上のトラブルについて発表した。
５　その他（others）		
1）中国人留学生のチューター業務	2011年4月～2012年3月：１名 2012年4月～2013年3月：1名 2012年9月～2013年8月：1	東京大学の中国人留学生のチューター業務を積極的に引き受け、日本での生活や修士課程受験のための試験対策・論文執筆サポートをした。大学から委託されるチューター業務終了後も継続的な関係を築いている。
2）他大学授業でのゲストスピーカーとしての講演	2013年10月（東洋大学）、2016年11月（尚絅学院大学）、2016年12月（中央大学）、2017年10月（尚絅学	東洋大学社会学部３、４年生向け「社会調査及び実習」、中央大学総合政策学部ゼミナール（文化人類学）、尚絅学院大学「観光論」などの授業でゲストスピーカーとして講演した。文化人類学的な研究としては、会社でのフィールドワーク事例は少なく、また、観光産業へ社会文化的側面からアプローチする研究も多くはない。そのため、依頼を受けた場合は、積極的に引き受けるようにしている。
3）藤沢市市民講座での講演	2017年9月	多摩大学グローバルスタディーズ学部と藤沢市が合同で実施する「市民講座」において、「世界遺産は誰のものか？ー文化人類学からのアプローチ」というテーマで一般市民向けに講演を行った。

職務上の実績に関する事項（achievements in career）

事項（question）	年(y)月(m)日(d)	概要（summary）
１　資格，免許（licence or qualification）	2006年3月 2013年8月	中学校・高等学校教諭一種免許状（家庭科） 中国語検定試験2級
２　特許等（patent）		該当なし
３　実務の経験を有する者についての特記事項（special remarks for those with teaching experience）		該当なし
４　その他（others）		
1）在中国日系旅行会社での実務経験（中国語、日本語）	2010年8月～2011年3月：フルタイム勤務 2012年12月～2013年2月：パートタイム勤務	中国広東広州市の佳天美旅行社（JTB広州）において、博士論文のためのフィールドワークを行った。無給の研究生として約8ヶ月間フルタイムで勤務し、2012年12月～2013年2月の3ヶ月間はパートタイムでコンサルタントして勤務した。主に地元大手旅行会社との中国人富裕層向け日本ツアーの企画・手配・宣伝業務を担当した。
2）地方公共団体等職員採用のための教養試験問題の作成補助	2012年7月～2015年2月	「公益財団法人日本人事試験研究センター」において、非常勤職員として勤務した。主に一般教養問題として出題される現代文・英文の読解問題作成業務を担当した。
3）東アジア人類学研究会の幹事として研究会の企画・運営	2011年4月～2015年3月	東アジアをフィールドとする若手人類学者を中心メンバーとする東アジア人類学研究会の幹事をしていた。中国潮州の赣南師範大学、広州の中山大学、南京大学などでの国際研究会も実施した。幹事であった4年間は約25回の研究会の企画・運営に関わった。2014年度からは年に一度の研究大会を開催しており、現在も旧幹事として企画・運営に関わっている。
4）仙人の会幹事として研究会の企画・運営	2013年4月～2014年3月	中国およびその周辺地域を研究領域とする人類学・民俗学・歴史学などの研究者が集まる勉強会である仙人の会の幹事をした。当研究会は1981年から続くものであり、幹事をした一年間には8回の研究会を企画・運営した。

5) 日本華僑華人学会2016年度大会実行委員として学会の企画・準備・運営	2016年11月	2016年度大会実行委員となり、大会運営を行った。主に会計業務を担当した。

研究業績等に関する事項（achievements in research）

著書，学術論文等の名称 (published books or papers written by you	単著（single）・共著の別（co-authored）	発行又は発表の年月 (date of publishment)	発行所，発表雑誌等又は発表学会等の名称 (publishers or academic connumites)	概要（summary）
（著書）(published books)				
1)「アジアからの観光客―ビジット・ジャパン・キャンペーンのなかで」『観光文化学』山下晋司編	共著（陳黎明・田中孝枝）	2007年12月	新曜社、pp.84-90。	訪日アジア人観光客を事例として、先行研究の希薄なアジア人によるアジア観光を研究する重要性を指摘した。
2）「中国人観光客がやってくる」『人の移動事典―日本からアジアへ・アジアから日本へ』蘭信三・伊豫谷登士翁・関根政美・吉原和男・吉原直樹・山下晋司編	単著	2013年12月	丸善出版、pp.402-403。	訪日中国人観光客の動向についてまとめ、観光市場を動かす「中華系」エスニック・コネクションの重要性を指摘した。
3）「从包装現場到包価游―以面向日本游客的福建土楼游為例(邦訳:現場からパッケージツアーまで―日本人観光客向け福建土楼ツアーを事例として)」『全球化背景下客家文化景観的創造―環南中国海的個案(邦訳:グローバル化における客家文化景観の創造―環南シナ海のケーススタディー)』夏遠鳴· 河合洋尚主編	単著	2015年3月	暨南大学出版社(中国広東)、pp.57-77。	中国の日系旅行会社において、日本人客向けパッケージツアーが生産される過程に焦点を当てた。特に福建土楼をめぐるツアー企画のなかで「客家」が様々なアクターによって如何に語られるかを考察した。
4）「同僚として、調査者として―広州の会社でフィールドワークした『私の経験』」『フィールドワーク：中国という現場、人類学という実践』西澤治彦・河合洋尚編	単著	2017年6月	風響社、pp.155-172。	中国の会社におけるフィールドワーク経験について整理し、人類学的フィールドワークは調査対象の広がりに合わせて方法論の精緻化が必要であることを述べた。
5）「日本の中の多文化社会--訪日外国人の事例から―」『多文化時代の観光学』高山陽子編著	単著	2017年6月	ミネルヴァ書房、pp.169-186。	教科書として使用されることを想定して編まれた本書のなかで、「日本の中の多文化社会―訪日外国人の事例から―」という章を担当した。訪日外国人観光客の増加している現状を整理し、彼らの移動が日本社会の多文化化を推し進めていることを述べた。
6）「中国人観光客がもたらす変容」『華僑華人の事典』吉原和男編集委員長	単著	2017年11月	丸善出版	華僑華人研究の全体像を浮かび上がらせることを目的に編まれた本書において、近年の中国人観光客の増加がもたらす日本社会の変容、華僑華人をめぐる先行研究との関わりについて整理した。
（学術論文）(academic papers)				
1) Japanese Reactions to Chinese Tourists: A Perspective on Reinvention of Value	単著	2009年10月	*Japanese Review of Cultural Anthropology*, 日本文化人類学会, vol.10, Bikosha(Tokyo), pp.53-63.	静岡県熱海市を事例として、観光地としての価値が再創生される過程を、主に熱海市政府および商工会議所の中国人観光客誘致の取り組みに焦点を当てて考察した。

2) The Sociality of Tourism from the Visitor's Society Viewpoint: Japanese Tourism in East and Southeast Asia	単著	2010年6月	Tourism and Glocalization: Perspectives on East Asian Societies. *SENRI ETHNOLOGICAL STUDIES*, vol.76, Min HAN and Nelson GRABURN(eds.) National Museum of Ethnology (Osaka), pp.131-159.	日本人による東・東南アジア観光を事例として、観光客送り出し社会において人々が観光客になる社会文化的、政治的、商業的背景を包括的に分析した。本論文は、2008年3月に東京大学大学院総合文化研究科に提出した修士論文「日本人のアジア観光―観光人類学からのアプローチ」をもとにしたものである。
3) 「福建土楼的有意説明方式―以日企旅行社的包価旅游生産過程為例（邦訳：福建土楼の有意な説明方式―日系旅行会社のパッケージツアー生産過程を事例として）」	単著	2013年6月	『客家研究辑刊』、vol.42、嘉応学院客家研究院（中国広東省）、pp.12-24。	中国広東省の日系旅行会社におけるパッケージツアー生産過程に着目し、対象の文化的差異が見出され、商品化される過程を旅行会社の仕事現場から微視的に考察した。
4) 「職場中的”文化”表述：以広東省日企旅行社為例（邦訳：職場における「文化」の語り―広東省の日系旅行会社を事例として）	単著	2015年3月	『華人応用人類学学刊』、王向華編、vol.4、中央研究院民族学研究所（台湾）、pp.81-96。	中国広州市の日系旅行会社の職場において、中国人と日本人スタッフたちが「文化」について、どのような語りを行っているのかを分析した。
5) 「旅行業のエスニック・ビジネスとしての側面：ホストとゲストからネットワークへ」	単著	2016年3月	『多摩大学グローバルスタディーズ学部紀要』第八号、多摩大学グローバルスタディーズ学部、pp.133-148。	日中間の観光業を事例として、観光による人の移動とそこで生じる文化変容を捉えるためには、観光人類学の基本的概念であるホストとゲストというカテゴリーよりも、ネットワークに着目すべきことを指摘した。
6) 「エスニック・ビジネスとしての観光業-在日中華系旅行会社のネットワークとサービス-」	単著	2016年12月	第22回公募研究プロジェクト研究論文『研究報告』No.26、旅の文化研究所、pp.17-26。	旅の文化研究所から公募助成を受けた研究成果として、日本で中国人観光客のツアーを手配する旅行会社の事例報告と分析を行った。
7) 「『学部間連携による沖縄研究：沖縄における観光と琉球の歴史を中心に』報告」	共著	2017年3月	『多摩大学グローバルスタディーズ学部紀要』、第九号、多摩大学グローバルスタディーズ学部、pp.157-162。	2015年度共同研究費（グローバルスタディーズ学部）の成果として、インターゼミでの沖縄フィールドワークについて報告した。
8)「多摩大学における学部間連携による沖縄研究 ： 沖縄における観光と琉球の歴史を中心に」	共著	2017年3月	『経営・情報研究 ： 多摩大学研究紀要』第21号、多摩大学経営情報学部、pp.185-188。	2015年度共同研究費（経営情報学部学部）の成果として、インターゼミでの沖縄フィールドワークについて報告した。
（その他）（others）				
1) 新刊紹介：庄国土・劉文正著『東亜華人社会的形成和発展―華商網絡。移民与一体化趨勢』	単著	2012年11月	『華僑華人研究』、日本華僑華人学会、第9号、pp.170-173。	中国における華僑華人研究の第一人者であるアモイ大学の庄国土教授と同博士課程の劉文正氏による『東アジア華人社会の形成と発展ー華商ネットワーク、移民と一体化の動向』を紹介した。
2) エッセイ：「文明的な中国人観光客」	単著	2012年12月	『アリーナ』、中部大学総合学術研究院紀要、第14号、pp.264-268。	中国における観光客の「文明化（civilization）」という話題から、海外観光で問題となるマナーの歴史的変遷と社会的意味を考察することの重要性を指摘した。
3) コラム：「日本的客家名人研究―人物像与日本観（邦訳：日本の客家名士研究―人物像と日本観）」	単著	2013年10月	『日本客家研究的視角与方法―百年的軌跡（邦訳：日本客家研究の視覚と方法―百年の軌跡』、河合洋尚、嘉応学院客家研究院（中国広東省）、pp.177-184。	日本と関わりの深い客家名士４人を紹介し、日本における彼らに関する先行研究を整理した後で、今後の研究課題として、客家の人々の日本観を明らかにしていくことの意義を提起した。
4) 翻訳：Sydney C. H. Cheung「食と観光」	単著	2013年12月	『人の移動事典―日本からアジアへ・アジアから日本へ』丸善出版、pp.362-363。	香港中文大学で教鞭をとる人類学者Sydney C. H. Cheung氏がフード・ツーリズムについて書いた英文原稿を邦訳した。

5）「資料と通信　東アジア公共人類学懇談会」	共著	2016年9月	『文化人類学』81(2)、日本文化人類学会、pp.344-347。	日本文化人類学会から課題研究懇談会として研究助成を受けた「東アジア公共人類学」の研究活動と成果を報告した。
6）テーマ解説「食と農：地産地消のオルタナティブな市場づくり」	単著	2017年5月	『大いなる多摩学研究』No.1、大いなる多摩学会、pp.79-80。	大いなる多摩学会の今後の研究テーマとして「食と農」をめぐる現在の社会的課題について概説した。
<u>科学研究費助成事業</u>				
1）挑戦的萌芽研究「文化人類学における文化的ビジネス・スキル開発のための調査研究」（代表：京都外国語大学　佐々木伸一教授）研究協力者	共同	2013年4月～2016年3月		主に文化人類学者と企業の協働が進んでいる欧米のビジネス人類学、および近年その進展が甚だしい中国のビジネス人類学の現状把握に取り組み、日本での展開可能性を検討した。
2）基盤研究B「東アジアの戦争観光とナショナリズム」（代表：亜細亜大学　高山陽子准教授）共同研究者	共同	2015年4月～2018年3月		東アジアにおける戦争観光の特徴を欧米社会と比較しながら検討する。中国における戦争・災害観光の調査を担当している。
3）若手研究B「訪日中国人観光客を動かすメカニズム：インバウンド観光を通じた日中相互理解のために」代表研究者	単独	2016年4月～2019年3月		レジャーを目的とした中国人観光客の訪日を動かしている中華系ランドオペレーターで働く人々とそのネットワークを調査している。
4）基盤研究B「世界遺産と防災：アジアにおけるヘリテージツーリズムの持続的発展のために」（代表：帝京平成大学　狩野朋子講師）共同研究者	共同	2016年4月～2019年3月		世界遺産の防災計画について、建築学と文化人類学の研究者による学際的アプローチで検討する。その中で、中国における震災の記憶の継承について調査している。
<u>学会からの研究助成</u>				
1）日本文化人類学会課題研究懇談会「東アジア公共人類学懇談会」共同研究者	共同	2012月4月～2016年3月		公共人類学は、アカデミアにおける学術論文の発表だけでなく、文化人類学を社会に開き、短・中期的な社会貢献につなげることを目指す動きであり、東アジアにおける公共人類学の可能性について検討した。
<u>その他競争的研究資金</u>				
（個人研究） 1）公益信託澁澤民族学振興基金「大学院生に対する研究活動助成」	単独	2008年4月～2009年3月		研究題目「中国人による日本観光の人類学的研究―観光商品の生産・消費過程に関する民族誌的分析」で研究助成を得て、中国で約２年間のフィールドワークを実施した。
2）松下国際財団研究助成	単独	2008年10月～2009年9月		研究題目「中国人による日本観光経験のプロセス：現代中国のおける国際観光の制度・産業的動態と観光客による経験の諸相」で研究助成を得て、中国で約２年間のフィールドワークを実施した。
3）グローバル・スタディーズ・プログラム（組織的な若手研究者等海外派遣プログラム・東京大学総合文化研究科・文系）	単独	2011年12月～2012年3月		研究題目「観光商品の生産過程に関する文化人類学的研究―中国広州市の日系旅行会社におけるサービスの商品化」で研究助成を得て、中国及び日本での調査を行った。
4）公益財団法人りそなアジア・オセアニア財団「国際交流活動助成」	単独	2012年4月～2013年3月		研究題目「訪日中国人観光客に関する文化人類学的研究―中国広州市の日系旅行会社におけるサービスの商品化」で研究助成を得て、中国及び日本での調査を行った。
5）旅の文化研究所「公募研究プロジェクト」	単独	2015年4月～2016年3月		研究題目「エスニック・ビジネスとしての観光業―在日中華系旅行会社のネットワークとサービス」で研究助成を得て、調査を行った。
（共同研究） 6）JCAS地域研究コンソーシアム次世代ワークショップ・共同研究者	共同	2012年4月～2013年3月		研究題目「東アジアの境界を超える人々と宗教をめぐる諸問題」の共同研究者として、中国人による宗教施設の観光を調査した。

7）国立歴史民俗学博物館共同研究・リサーチアシスタント	共同	2013年4月～2014年3月		研究題目「民俗儀礼の変容に関する資料論的研究」のリサーチ・アシスタントとして、関連資料の整理、研究会・調査の運営を手伝った。
8）台湾行政院客家委員会・研究協力者	共同	2013年4月～2014年3月		研究題目「苗栗園区海外研究―日本客家研究」の研究協力者として研究助成を得て、台湾の研究者と共同で日本の客家について調査を行った。
9）JFEアジア歴史研究助成・共同研究者	共同	2015年1月～2016年12月		研究題目「膨張する中国による東アジア新秩序下の中台関係に関する人類学的研究」の共同研究者として助成を得て、中国人観光客に対する台湾の人々の反応について調査した。
10）京都外国語大学学内共同研究・共同研究者	共同	2016年1月～2017年3月		研究題目「Business Anthropologyの日本的展開に関する研究」の共同研究者として、調査会社への文化人類学的調査技法の応用について調査を行った。
11）京都外国語大学学内共同研究・共同研究者	共同	2017年1月～2018年3月		研究題目「文化人類学の『地域経営』参画に関する調査研究-ダイアローグの場の生成を通じて」の共同研究者として京丹後地域の地域経営に関する調査を行っている。
<u>国際学会での口頭発表</u>				
1）'Japanese Reactions to Chinese Tourists: A View from the Perspective of "Value" Rearrangement'	単著	2009年7月	SEAA Taipei 2009: Conference of the Society for East Asian Anthropology, American Anthropological Association, Taipei(Taiwan).	Session 21 "New Trends of Tourism/ Migration in Japan and Beyond"において口頭発表を行った。発表内容は、*Japanese Review of Cultural Anthropology*に投稿し、出版された（学術論文業績１）
2）'Sociality of Tourism from the "Guest" Society Viewpoint: Japanese Tourism in East and Southeast Asia'	単著	2009年7月	The 16th IUAES(International Union of Anthropological and Ethnological Sciences)World Congress in Kunming, Kunming(China).	Session R515"Tourism and Glocalization: Perspective on East Asian Societies"において口頭発表を行った。発表内容は、Tourism and Glocalizaiton: Perspectives on East Asian Societies.SENRI ETHNOLOGICAL STUDIESに投稿し、出版された（学術論文業績２）。
3）「"文化商品化"的過程―以広州市的日企旅行社為例」	単著	2011年12月	第二回青年論壇、於・国立中山大学（中国）。	中国の日系旅行会社において観光ツアーが造成される過程について考察した。
4）「客家名人与日本」	単著	2011年12月	広東民族研究学会、於・嘉応大学（中国）。	発表内容は『日本客家研究的視角与方法―百年的軌跡（邦訳：日本客家研究の視覚と方法―百年の軌跡』にコラムとして採録された（その他業績３）。
5）「職場中的"文化"表述：以広東省日企旅行社為例」	単著	2014年3月	香港亜州研究学会第九回検討会、於・香港大学。	発表内容は『華人応用人類学学刊』に投稿し、出版された（学術論文業績４）。
6)'The Role of Tourism Campanies in Forming Ethical Tourists: Case Study of Tourists from Chinese to Japan"	単著	2014年7月	XVIII ISA World Congress of Sociology, in Yokohama.	Session RC50,"Ethical dimensions of tourism practices: tourism and its social contributions in and beyond Japan"において発表した。中国の日系旅行会社で行われる参加者へのマナー教育が、日本側旅行会社に対するマーケティングの一貫になっていることを指摘した。
7）'Contributions of anthropological work practice studies in business research: Case study of a Japanese travel company in Guangzhou, China'	単著	2016年5月	IUAES(International Union of Anthropological and Ethnological Sciences) Inter congress, in Croatia.	Panel 612 "Future of enterprise anthropology in business research"で、職場における人類学的調査成果の、社内の人材育成プログラムへの応用可能性について発表した。

8) 'The process of negotiation and comparison between "Chinese style" and "Japanese style" in the office: A case study of a Japanese travel company in Guangzhou	単著	2017年5月	IUAES(International Union of Anthropological and Ethnological Sciences) Inter congress, in Ottawa.	Panel RM-CPV01"Enterprise anthropology: conflict resolution in business communities"で、パッケージツアー造成過程に生じる文化的衝突が「解消」される要因について発表した。
9) 'World Heritage and Tourism in Asia: In Relation to Disaster Risk Management'	共著（Tomoko Kano,Shinji Yamashita,Momoyo Gota, Megumi Doshita,Takae Tanaka, Hiroi Iwahara)	2017年8月	EATSA(Euro-Asia Tourism Studies Association)2017,In Nara	建築学者と共同で進めている科研「世界遺産と防災：アジアにおけるヘリテージツーリズムの持続的発展のために」の途中成果を発表した。
海外での講演				
「世界遺産与防災：亚洲遺産観光的可持続性研究」（邦訳：世界遺産と防災：アジアにおける遺産観光の持続可能性」）	単著	2017年3月	西南交通大学世界遺産国際研究中心（中国四川省）	世界遺産センターの職員および大学院生に対して、人類学的な防災研究の可能性について講演した。
国内学会での口頭発表				
1)「日本人のアジア観光―観光人類学からのアプローチ」	単著	2008年3月	日本文化人類学会関東地区研究懇談会修士論文・博士論文発表会、於・成城大学。	東京大学大学院総合文化研究科超域文化科学専攻（文化人類学コース）の推薦を受け、修士論文の内容について口頭発表を行った。
2) 「プロセスとしての観光―日本人による東・東南アジア観光を事例として」	単著	2008年6月	日本文化人類学会第42回研究大会、於・京都大学。	修士論文の内容をもとに、人々が特定の社会的・文化的・商業的文脈のもとで観光客になるプロセスについて発表した。
3)「観光の社会的構成―中国広東省からのパッケージツアーを事例として」	単著	2008年11月	総合観光学会第15回全国学術研究大会、於・熱海起雲閣。	中国で販売されている訪日ツアーの内容や価格、イメージについて発表した。
4) 「訪日観光ツアー商品の『価値』構成―在中国日系旅行社と現地旅行社の提携による富裕層向け商品開発を事例として」	単著	2012年6月	日本文化人類学会第46回研究大会、於・広島大学。	中国の日系旅行会社における中国人富裕層向けに本ツアー造成のプロセスにおいて、その「価値」がいかに構成されていくかを発表した。
5) 「観光商品をつくる仕事実践と複数の評価基準―中国広東省日系旅行会社の職場を事例として」	単著	2012年6月	総合観光学会第22回研究大会、於・日本大学。	中国に日系旅行会社において日本人スタッフと中国人スタッフの間で生じている仕事の「効率」をめぐる争いについて発表した。
6) 「中国人観光客の『文明化』―観光の教育的側面に関する一考察」	単著	2013年6月	総合観光学会第24回全国学術研究大会、於・日本大学。	中国に置ける観光客の「文明化」をめぐる動きと観光の教育的役割について発表した。
7)『日本的サービス』の解釈―在中国日系旅行会社の職場を事例として	単著	2015年7月	日本国際文化学会、於・多摩大学。	中国の日系旅行会社において、「日本的サービス」がどのように解釈されているのかを発表した。
8) 「中国人観光客を動かすネットワークの分析に向けて」	単著	2016年6月	総合観光学会、於・帝京大学。	訪日中国人観光客を動かす、中華系ランドオペレーターのネットワーク研究の可能性について発表した。
9) 「『震災に抗う』というナショナリズム：紅色旅行基地としての震災遺跡公園を事例として」	単著	2017年5月	日本文化人類学会第51回大会、於・神戸大学。	四川大地震後に開設された震災記念館の展示とナショナリズムについて発表した。
国内シンポジウムでの発表				
1)「テーマパークとしての『楽園』：中国人団体観光ツアーを動かすメカニズム」	単著	2015年8月	北海道大学国際広報メディア・観光学院共同研究プロジェクト「拡張現実の時代における＜場所＞と＜他者＞に関する領域横断的研究」主催シンポジウム「失楽園の観光学：後期近代型マスツーリズムの観点から」	訪日中国人観光客を動かす日中間のネットワークと仕事の進め方、そこでつくられる商品の「価値」について発表した。
国内研究会での口頭発表				

1)「観光商品の生産・消費過程の民族誌的分析にむけて―日本人による東・東南アジア観光を事例として」	単著	2008年8月	日本観光研究学会研究分科会「地域と観光の相互作用における表象・空間・経験の現代的位相」、於・立教大学。	修士論文をもとに、観光商品の生産・消費過程を包括的に捉えるための方法論について発表した。
2)「『文化の商品化』の過程―『良い』商品としてのおもてなしの心」	単著	2011年10月	第27回東アジア人類学研究会、於・東京大学。	中国の日系旅行会社における「日本的サービス」やそれを支える「おもてなしの心」に商品としての価値を付加しようとする言説のあり方について発表した。
3)「サービス」を商品化するにあたって―中国広東省の日系旅行会社の職場からみる『合理性』」	単著	2012年3月	仙人の会例会、於・明治大学。	中国の日系旅行会社の職場において生じる仕事のやり方をめぐるトラブルを価値合理性の観点から分析し、発表した。
4)「職場における知識・技能の学習と『企業文化』のイデオロギー化―中国広東省に進出した日系旅行会社を事例として」	単著	2012年11月	第811回首都大学東京社会人類学研究会、於・首都大学東京。	中国の日系旅行会社において、スタッフたちが手配の仕事の知識や技能を学ぶあり方について発表した。
5)「観光ルートに組み込まれた日本の神社仏閣―中国人ツーリストを事例として」	単著	2012年11月。	地域研究コンソーシアム次世代ワークショップ、於・東京外国語大学。	訪日中国人ツアーのルートに組み込まれている神社仏閣の観光資源化について発表した。
6)「組み合わせる、つなぎあわせる、組み替える―中国広東省に進出した日系旅行会社における仕事のやり方」	単著	2013年7月	第94回現代人類学研究会、於・東京大学。	中国の日系旅行会社における手配の仕事をめぐって、スタッフたちに認識される知識や技能の階梯について発表した。
7)「東京崇正公会創立50周年紀年第47届懇親大会に参加して」（中国語で発表）	単著	2013年7月	台湾行政各家委員会「苗栗園区海外研究―日本客家研究」座談会、於・国立民俗学博物館。	日本の客家団体である東京崇正公会の50周年パーティの様子を台湾人研究者に向けて発表した。
8)「『現地』をはっきりさせる―中国広州市の日系旅行会社における手配の仕事」	単著	2014年2月	筑波人類学研究会第14回定例会、於・筑波大学。	中国の日系旅行会社における手配の仕事における「日程表」という文書の果たす役割について発表した。
9)「"Collaborative Ethnography"という書き方と公共人類学の可能性」	単著	2014年2月	日本文化人類学会課題研究懇談会東アジア公共人類学懇談会第3回研究会、於・国立民族学博物館。	Collaborative Ethnographyという手法について整理し、その意義について発表した。
10)「旅行業のエスニック・ビジネスとしての側面：在中国日系旅行会社を事例として」	単著	2015年7月	寺島文庫塾アジア・ユーラシア研究会、於・寺島文庫。	国際観光をめぐるビジネスのエスニック・ビジネスとしての特徴を日中間の観光を事例に発表した。
11)「中国人観光客から見た日本の聖地」	単著	2016年2月	科学研究費基盤B「東アジアの戦争観光とナショナリズム」研究会「聖地とナショナリズム：日本の近代戦争の事例から」、於・亜細亜大学。	中国人による訪日ツアーと参加者のパターンを類型化し、靖国神社への中国人観光客の反応について発表した。
12)「中国人観光客の移動からみる中台関係」	単著	2016年10月	東アジア人類学研究会研究大会、於・北海道大学。	台湾での政権交代後の中国人観光客激減とその影響について発表した。
13)「より良い『薬』を求めて ： 日本における中国人の土産消費からみる『健康』志向」	単著	2016年3月	JRCA特集「現代アジアの消費文化」プロジェクト第１回研究会、於・早稲田大学。	訪日中国人観光客がお土産として購入する「薬」に注目し、今後の研究の方向性について報告した。
14)「愛国と抗震：四川省汶川地震記念館を事例として」	単著	2017年4月	仙人の会4月例会「特集　東アジアにおける戦争と震災の展示と保存に関する比較研究」、於。法政大学。	四川大地震後に創設された地震記念館の展示において強調される「抗震」という言葉に着目し、展示される「愛国」の内容について発表した。
<u>国内シンポジウムでのディスカッサント</u>				

1)Re-imaging East Asia in tourism		2016年11月	The 19th Hokkaido University-Seoul National University Joint Symposium,in Hokksaido University	観光をとおして東アジアという地域を問い直す、という企画の当シンポジウムにおいて、ディスカッサントをつとめた。